

イエスは悪霊を追い出しておられた。それは口を利けなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚いた。しかし、中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者や、イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「内輪で争えば、どんな国も荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。サタンもまた内輪もめすれば、どうしてその国は立ち行けよう。」（ルカ11：14～18a）

主イエスは、悪霊を追い出し、苦しむ者を救っておられた。群衆の面前で、口を利けなくする悪霊を追い出し、口が利けるようにされた。この奇跡を見た群衆は、主イエスの力に驚愕した。ところが、ある人々は、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で追い出している」と言い、また、ある者たちは、主イエスを試そうとして、天からの徴を求めた。このように批判したのは、マルコ福音書では「律法学者たち」であったと記している。彼らは旧約聖書の律法を詳しく学び、これを民衆に教え、守るように教えていた。彼らの教えは頑なで、権威主義的に律法順守を強要するだけであった。彼らは悪霊を追放する主イエスに民衆が心奪われる状態を見て、嫉妬し、民衆が自分たちから離れていくことに恐れを持った。だから、主イエスの力は悪霊の頭ベルゼブルによるのだ、主イエスの働きは悪魔の業だ、と言ったのである。主イエスは彼らの心の内を見抜いて、「内輪で争えば、どんな国も荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。サタンも内輪もめすれば、どうしてその国は立ち行けよう」と言われた。口を利けなくしている悪霊を追放したのが、最高位の悪霊ベルゼブルによると言うのであれば、サタンが内輪もめしていることになり、サタンの国は、立ち行かなくなるのではないかと反論された。そして、主イエスがベルゼブルの力で悪霊を押し出しているのであれば、あなたがた律法学者たちは何の力で追い出しているのか。何もできないあなたがたは自分自身を裁く者となると彼らの無力を指摘された。

そして、主イエスは「私が神の指で悪霊を追い出しているのなら、神の国はあなたがたのところに来たのだ」と宣言された。マルコ福音書はガリラヤで宣教を始められた最初の言葉は「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい（マルコ1：15）」であったと記している。神が人間を救おうとした時が満ち、神の子イエスを遣わされた。主イエスが遣わされることによって、神の国が来た。主イエスは神の指によって、悪霊に取りつかれて苦しむ者を解放する神の国は実現した。福音は、主イエスによって神と共にあるインマヌエルの救いがもたらされた。この事実を信じ、受け入れる。これが悔い改めである。

主イエスは「強い人が武装して自分の屋敷を守っているときには、その財産は安全である。しかし、もっと強い者が襲って来てこの人に勝つと、頼みの武具を奪い、分捕り品を分け合う」と言われた。強さで守られているなら、更に、強い者の前では無力となる。あなたがたは何に守られているかと問われている。そして、「私と共にいない者は私に反対する者であり、私と共に集めない者は散らす者である」と言われた。律法学者たちは、主イエスに敵対し、ベルゼブルの頭によって悪霊を追放しているなどと根拠のない悪口を言い張っている。彼らは人々を神の恵みから散らしている。主イエスの言葉と力は神からのものであると信じ、受け入れる者は、神の恵みの下に集められる。